

平野二十五年史

平野植民地日本人会

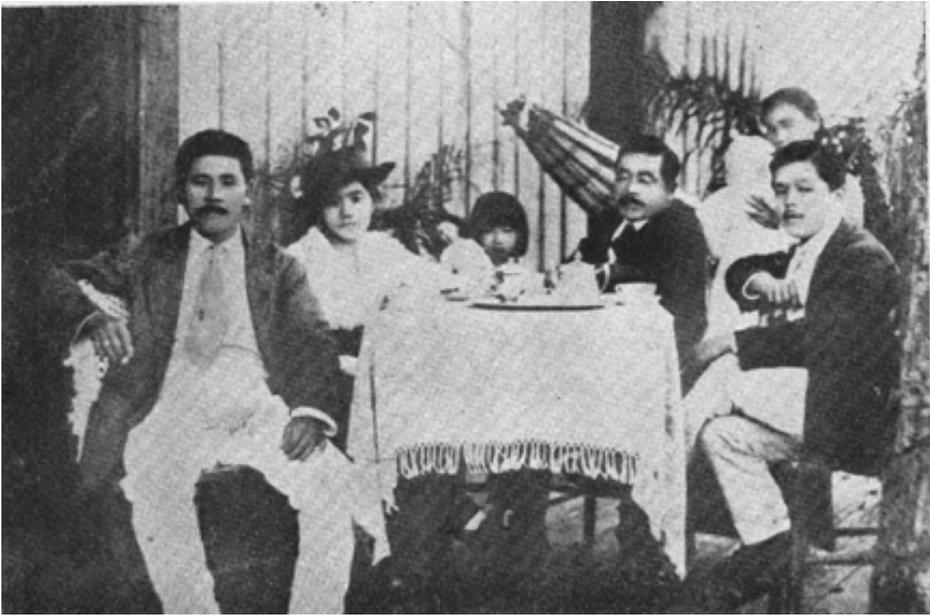
平野廿五周年史

序

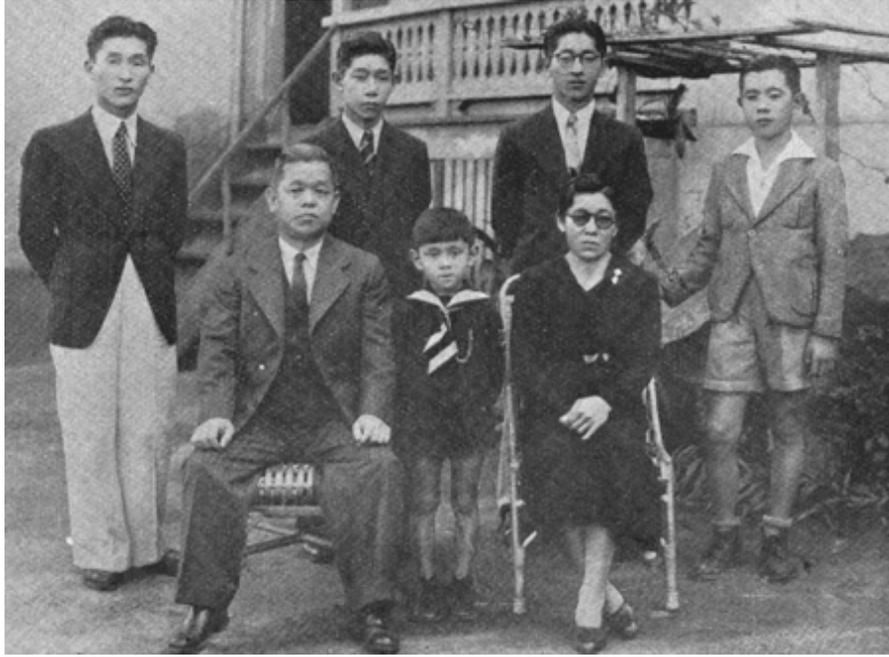
文



平野殖民地



Handwritten Japanese text on a document or envelope, including the date 大正二年四月廿三日 (April 23, 1913) and the name 平野殖民地 (Hirano Colonization).



平野運平

琵琶歌

夫れ人生は五十年
成敗遂に天の教
茲に同胞の一英才
心に誓ふ牛後の悔
唯一蹴の塵と見て

榮枯は夏の夢をれや
消へて後の名と惜む
平野運平氏は
毎年菜まじ苦心の地位を
自尊自由の別天地

我植民の先駆りや
珈琲花咲くクラハラと
瘴烟蠻雨のロエステ
トレスバラの處女林に
大和民族の獨立地ぞ
人種の肌の白や黄が

数多同志の家族を辛
夢の残りとかへりみて
ドランド川の河ほりり
开拓事業の先鞭す
異境果して何者ぞ
差は愛憐の妨げか

白雲飛べよ黒雲飛べ
骨を埋めん山又山
星もまたく焼よ
老若男女勇ましく
愛馬の紅塵豊に打たせ
衆を顧み拮ぎして

想は燃ゆる同胞の
大正四年葉月の初め
先駆の撃つ二十名
辛ひる平野運平は
やがてドランドの河辺に立ち
河の彼方の山じ山

我等の目指す青山と
衆期せずして意気天を吞
おちちも虎狼も何物ぞと
運平つりく想ふ様
いとも少きものなれど
アマゾン平野も何がある

深くや忽ち美の泉よ
山路の險阻も何のその
鬼神もさけん慨ありき
我等此の度の殖民は
天の心に叶ひなば
後し植へなん山楼

俄作りの茅の屋根
星戴きて斧を取り
いそむ衆と諸共に
歳又歳に山や谷
イッべの花の蔭に埋めん屍なると
時の松村總領事は

薪に臥して夢を結む
月影踏みて鋏を止め
心を焦し身を碎き
拓く田畑の幾千町歩
斧を握りて天を仰ぎぬ
平野が赤手の意気感に

陰の助力や言の葉に
されど天の時地の利苟くは
瘡痍頻りに人に迫り
枕ならざる幾十衆族
病ては熱の囚はれにて
立てども歩めぬ夫あり

励む平和の戦と勇めしが
蠻雨烈しく四方を穿ち
飢へ困難の疲劣の身
鬼とも組まん飛軍も
妻の腕に助けられ
母のむくろにすがつき

病と飢ゑの緑り子の
乳気ふ側に父親は
緑子すかえ刀もなく
熱の枕の夜もあり
又ある時は父と子と
枕ならべて後々先さ
呼べども蘇らぬ二つのむら
泣りく葬り事もあり
末期の水を弟に
共に姉はそゝ夕べ
同じ枕に逝くもあり
子を先立て、親も亦

朝な夕な夢の杵や
語も知る山又山
鳥は樹に棲み魚は水に
人は情の陰に住む
飢と病軀に勞れ果て
死別悲惨の殖民を
片手に涙片手には
不撓の勇氣勵まして
晁天無情の胸の中
君のやせぬ河なつん
歳あらだまうて瘡癒去り
君の不屈の功ありて

作も豊の安泰と
祝ふ心を神知らず
雲か霞か嵐か
すみ渡りたる大空の
底も沸きし無量煙
ざつとばかりに嵐と来て
草木さへもなき倒し
天地忽ち暗黒の
女子供は泣き叫ぶ
唯一時の予猶もなく
實り五穀も枯れ果て、
地に伏しきと去りもせず

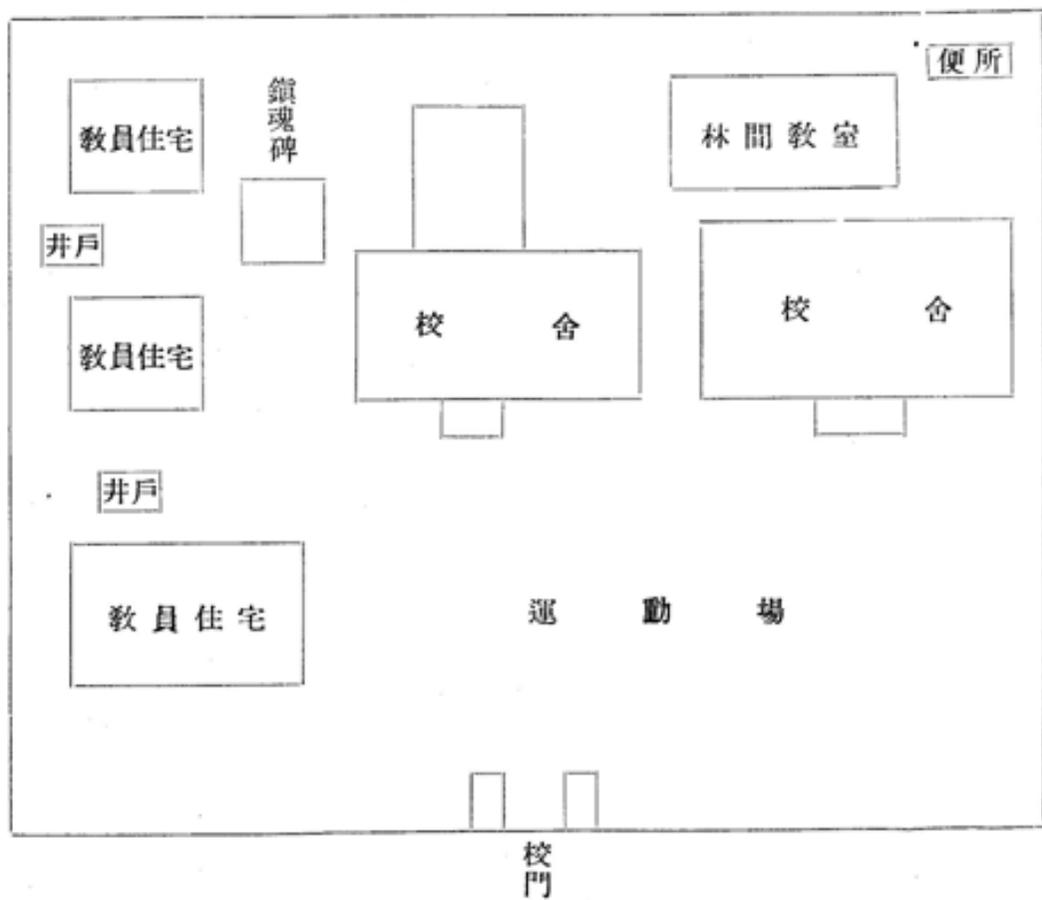
空に叫べど甲斐もなく
唯だ忙然とたづみて
玉の酒杯底もなく
心と共に身をもたぐ
遂に病みつき秋まは
我ノロエステの殖民の

答ふものは煙の羽音
天を仰ひし涙なり
苦勞忘る酒の香
残る事業のあれやこれ
月は落ちゆく雨の空
足鞭つけし徹骨も

天命なれば如何にせん
空をうとくる惨憺の
消へし姿は彩雲や
逝きにし人は帰らず
栄へ行く我殖民の
功蹟は傳ふ四ツの系

夕風泣ひて雲散りて
自然の吐息と諸共に
花落ち花咲くまくれど
君は去りても歳年に
平和の戦の魁けと
功蹟は傳ふ四の系

百 四 十 米



九 十 米

旭小學校建物概況圖

註 一千七百五十坪運動場。一百坪、教室三。講堂一。理科室一。
 四十坪 林間教室、草葺。五十五坪、教員住宅三

- 二、副業の奨励並に生産物の加工其の他家畜の飼育に努力なす事。
- 三、購買、販売の合理化を計る事。
- 四、~~珈琲傘~~調豊を改容難作並に適当なる果樹を栽培なす地事を

担保として低利の長期年賦償還を原則とす。

五、此の運用機関として産業組合を設立なす事。以上

植民地の経済死活問題として協力一致前記諸項を實際化なす可しと、爾来一意専心之が實現に努力なす可く、当事者として一大決心をなすに至る。当植民地はカフエランジア駅を隔たる事十五軒に始まり植民地以奥二十五軒に跨がり、大少数多の植民地を控え、同胞家族三百三十家族を算し恰も其の咽喉部に位し、当植民地内に産業組合組織の有無は是れ等同胞の死活に関する重大事なり。

元來植民地内に組合の組織なき為め、副業に依る農産物は簡易販売方法に留まり、自給自足の域を脱せず。生産物販売及生活必需品其の他の購入品は一切仲介商人の手に独占され、暴利を以て取扱はれ一般農業者の純益所得は、之れ等仲介商人の手に収められつつ有り。

組合設立に依って幾多仲介商人の暴利を防ぎ、延いては副業並に加工業の奨励となり、産業上の前途に光明を添へ植民事業発展の大成を期せんとす。然れ共当時諸物価の下落は恰も組合を設立し、其

の準備工作に最適の好機に直面なしたるも、資金融通の途なくんば其の實現は實に至難の事又遺憾となす。幸にして植民者の自覚と合すれば強なりの精神發揮に勉め、目的達成に精進せし次第なり。斯くて一九三一年一月十一日創立總會を開催し、満場一致産業組合設立を可決す。

- 一、名称 平野産業組合ト称ス。
- 一、資本金五十コントス。

- 一、組合員數 三百七十二名
- 一、組合全財産 九百五十四コントス
- 一、資本金 百四十六コントス
- 一、拂込資本金 七十三コントス

現 經 營 業 目

- 一、購買部 三ヶ所
- 一、精米部 一ヶ所
- 一、珈琲精撰部 一ヶ所
- 一、製棉工場 一ヶ所
- 一、信用部 貯金取扱ひ生産資金貸付
- 一、輸送部 荷物自動車二臺、
- 一、牧畜部 牛百四十四頭、馬五頭

一ヶ年組合取扱事業

一、珈琲精撰 五〇、〇〇〇袋

一、棉花精	一五〇、〇〇〇アローバ
一、精米數	二五、〇〇〇袋
一、販賣部	六〇〇コントス
一、其他	二〇コントス

...

...

...

...

...

...

...

...

...

各人現勢調査表

(順位不同)

氏名	鶏	豚	馬	牛	棉花	排	珈	業	積地	所有
佐藤勘七	七〇	三〇	四	二	五〇〇	五〇〇	三五,〇〇〇		六〇	六〇
植田勘三郎	二〇	二〇	四	五	八〇〇	八〇〇	一五,〇〇〇		一五	一五
森部伊三郎	五〇	一〇	三	〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	三五,〇〇〇		二五	二五
徳永治作	五〇	一七	一	〇	四〇	四〇	三四,〇〇〇		八	八
山下永一	五〇	二	一	三	五〇〇	五〇〇	六五,〇〇〇	店員	八	八
野見山保一	二〇	一〇	一	三	二〇	二〇	三三,〇〇〇		三	三
引地良作	五〇	六	二	九	三	三	一五,〇〇〇		三	三
矢野淺太郎	五〇	三	一	五	五〇〇	五〇〇	五〇,〇〇〇	商店	四	四
山下定一	五〇	三	五	三	三〇〇	三〇〇	四七,〇〇〇		一〇	一〇
鈴木正太郎	二〇	五	四	〇	四	四	一八,〇〇〇		二五	二五
藤澤豊次郎	五〇	三	三	一	一,〇〇〇	一,〇〇〇	四〇,〇〇〇		四〇	四〇
田中龍介	三〇	一	二	一〇	二七	二七	一五,〇〇〇		一〇〇	一〇〇
山室弘造	三〇	二	一	一〇	二	二	一六,〇〇〇		一〇〇	一〇〇
山本宇一	五〇	六	二	二	七〇	七〇	二六,〇〇〇		一六	一六
藤井福之助	五〇	一	一	二	三〇〇	三〇〇	三三,〇〇〇		二五	二五
小澤光造	二〇	二	一	一	七〇	七〇	二五,〇〇〇		二五	二五
前田義雄	五〇	二	一	一	一五	一五	二八,〇〇〇		二	二
平川數一	五〇	五	一	六	六	六	一〇,〇〇〇	監督	二	二
福島守	三〇	三	一	一	七〇	七〇	二八,〇〇〇		三	三
羽賀喜之助	八〇	三	一	一	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	八,〇〇〇		三	三
久保文次郎	一〇	一	一	一	五〇	五〇	二〇,〇〇〇		一〇	一〇
横野藤太郎	一〇	一	一	一	一五〇	一五〇	一四,〇〇〇		四〇	四〇
山本長次郎	三〇	一	一	一	七〇〇	七〇〇	六〇,〇〇〇		一三	一三
重本智吉	一〇〇	二〇	五	一	五	五			三	三

氏名	鶏	豚	馬	牛	花	棉	琲	珈	業	職	地積	所有面積
伊藤助一	五	一五	一	一	五〇〇	一〇,〇〇〇	一三,〇〇〇	一三,〇〇〇	佃	三	三	一八
重松治太郎	三〇	三	一	一	一五〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
高山勝次	三〇	三	一	一	四〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
柴田勝造	三〇	三	一	一	四〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
保坂啓太	三〇	三	一	一	四〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
小野才吉	一〇	三	一	一	三〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
具志堅充三	一五	三	一	一	三〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
江見義夫	五〇	三	一	一	一〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
池田藤造	二〇	三	一	一	一〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
富田恒祐	二〇	三	一	一	一〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
櫻田源二	二〇	三	一	一	一〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
南庄太郎	二〇	三	一	一	一〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
中島太郎	二〇	三	一	一	一〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
林下彌一	二〇	三	一	一	一〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
森下庄一	二〇	三	一	一	一〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
大石利實	二〇	三	一	一	一〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
松隈清喜	二〇	三	一	一	一〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
鳥居清雄	二〇	三	一	一	一〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
山本佳四郎	二〇	三	一	一	一〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
栗木豊太	二〇	三	一	一	一〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
中村太彈	二〇	三	一	一	一〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
白井捨太郎	二〇	三	一	一	一〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
藤原武太郎	一〇	三	一	一	一〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
森下光年	一〇	三	一	一	一〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
高山政平	一〇	三	一	一	一〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
大澤武平	一〇	三	一	一	一〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
實盛一郎	二〇	三	一	一	一〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三
秋永熊吉	一〇	三	一	一	一〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	佃	三	三	三

氏名	鶏	豚	馬	牛	棉花	棉	珈琲	職業	面積	所有面積	所積
大澤武雄	五	一	一	三	六〇〇	八,〇〇〇			三	三	三
上野荒市	三〇	一〇	一	三	五〇〇	八,〇〇〇			三	三	三
林義藏	二〇	一〇	一	三	五〇〇	二〇,〇〇〇			三	三	三
森定伴次郎	五〇	一〇	一	三	二〇〇	一七,〇〇〇			三	三	三
吉崎敏雄	一五	一〇	一	三	二〇〇	八,〇〇〇		コロノ	三	三	三
下田房吉	五	一〇	一	三	二〇〇	八,〇〇〇			三	三	三
林傳吉	五	一〇	一	三	二〇〇	八,〇〇〇			三	三	三
櫻井初次郎	三〇	一〇	一	三	八〇〇	三,〇〇〇			三	三	三
太田長次郎	五〇	一〇	一	三	六〇〇	八,〇〇〇			三	三	三
弓削清次	五〇	一〇	一	三	一,二〇〇				三	三	三
竹井助道	三〇	一〇	一	三	八〇〇				三	三	三
鈴木清司	五	一〇	一	三	五〇〇			牛馬商	三	三	三
佐々木若松	五	一〇	一	三	五〇〇				三	三	三
舟木常太郎	三〇	一〇	一	三	六〇〇				三	三	三
末永利雄	二〇	一〇	一	三	一,五〇〇				三	三	三
石塚巖	四〇	一〇	一	三	一,六〇〇				三	三	三
久保勝	五	一〇	一	三	六〇〇				三	三	三
神林傳吉	五〇	一〇	一	三	一,二〇〇				三	三	三
田中則夫	三〇	一〇	一	三	六〇〇				三	三	三
河尾利一	一〇	一〇	一	三	六〇〇				三	三	三
岡三郎	五	一〇	一	三	四〇〇				三	三	三
舟木暹太郎	六	一〇	一	三	一,〇〇〇				三	三	三
岡原六平	二〇	一〇	一	三	一,五〇〇				三	三	三
神田留吉	一〇	一〇	一	三	一,二〇〇				三	三	三
佐藤見一郎	八	一〇	一	三	一,〇〇〇				三	三	三
打山一太郎	一〇	一〇	一	三	一,〇〇〇				三	三	三
塚本秋造	一〇	一〇	一	三	一,〇〇〇				三	三	三
谷口八郎	三	一〇	一	三	一,〇〇〇				三	三	三

氏名	鶏	豚	馬	牛	棉花	珈琲	職業	借地面積	所有面積
山本久一	50	2	2			18,000	コロノ		33
三好吉郎	50					15,000	コロノ		33
岩並信次郎	30	10	2		100		コロノ		15
佐藤理吉	33	4					同		
寺田稔	30	3	2		100		同		
早坂敏男	20	2	2		100		同		
小菅捨吉	50	1	1		700		同		
嵯峨雄二郎	10	1	1		100		同		
淺野三保吉	30	1	1		200		同		
小川万司		2			270		同		
鍋島信太郎	50	10	3	6		80,000			60
緒方メ吉	50	7	3	5	1,400	5,000			14
榎本要一郎	30	1	1	3	600	10,000	牛馬商		6
今村惟喜	50	6			1,000		牛馬商		
權藤伴徳	10	1	3	10			コロノ		
別府才吉	10	4				180,000	コロノ		150
副島惠祐	10				1,500				10
重本松次郎						1,170,000			2,134

自家用荷物自動車所有者名

一 臺 佐藤 勘七 一 臺 鍋島 信太郎
 同 引地 良作 同 同前 田 義雄
 同 矢野 淺太郎 同 同 山下 定一

同	鈴木正太郎	同	森部伊三郎
同	重本智吉	同	植田勘三郎
同	藤原武太郎	同	淺野三保吉
同	藤澤豊次郎	同	副島惠祐

平野植民地年表

(自昭和二年十月
至昭和十五年一月)

年次	月日	記事
昭和二年	十月十六日	學校教材、器具購入、時計、地球儀 世界地圖、日本地圖、伯國地圖
同	十月二十五日	山崎參事官來植、參事官訓示、伯貨 二百ミルを同氏より旭校に寄附、隨 行員上川原書記生並に古川書記生 小學兒童バウルー市へ見學旅行
	十二月九日	旭小學校生徒修業式舉行
	十二月二十四日	高岡醫學博士並に古淵土木技師來植 す、四日間滞在衛生に關する調査
	十二月二十五日	田付大使へ贈呈品購入の爲山本宇一 氏リンスへ出張同日胸像二枚受領す 拜賀式舉行す
昭和三年	一月一日	旭小學校建築補助金申請、山崎參事 官の和歌到着
	一月十五日	赤松總領事來植、案内役高岡醫師 有吉大使より送付ありし碑文到着
	一月二十七日	平野祭、植民者一同並に生徒募參す
	二月四日	
	二月六日	

年次	月日	記
昭和四年	二月九日	總領事館内に於て農事講習會開催、 受講の爲佐藤勘七出頭なす
	十月十七日	旭小學校長田中龍介氏退職す
	同	同上校長として原篤氏新任す
	十一月十日	州視學一行來植、日本語教授を禁じ 閉鎖命令を交付し歸る
	十二月二十三日	西口仙藏氏病氣の爲歸國なすに付き 各區評議員は餞別を纏むる
	十月十七日	領事濱口光雄氏突然來植す
	十月二十六日	パウルー領事館より教材費補助金を 山下學務委員受領す
	十一月七日	サンパウロ日本人學校父兄會に山本 宇一、原篤、杉本貞次の三名出席な す
	十二月二十六日	パウルー領事館より教員優遇費とし て下附金は半額を教員に、半額を机 腰掛に使用す
	同	補助教員として原元幸氏教鞭を取る 榛葉彦平氏より伯貨三百ミルの寄附 金ある
昭和五年	一月三日	融通資金下附願を領事館並に總領事 館に提出す
	一月十八日	黒川新一氏に付き海外興業會社へ書 類提出す
	二月四日	北島書記官來植植民地視察をなす
	三月二日	當植民地負債額概畧表を領事館北島 書記官宛提出す
	三月十三日	在ベンナ町視學官より五月十二日附
五月十三日		

年次	月日	記事
昭和五年	五月十四日	<p>を以て閉鎖命令を受く、同日原校長外山本宇一、藤澤貞次氏等直ちに出張し、法規に従ひ十二歳以下は日本語をなさざる事、十三歳以上は従前通り教授をなし、直ちに學校認可の申請をなす可く視學官との了解を得原校長、山本、藤澤の三氏にてリンス方面に學事視察の爲出張 山本會長學校問題の爲パウルー領事館へ出張す</p>
	五月二十一日	<p>濱口領事の意見に因り旭校を私立學校として申請なす</p>
	五月二十二日	<p>在ベンナ町登記所に於て調査の結果平野植民地旭小學校敷地登記明細書（教員住宅敷地）登記年月は一九二七年四月二十七日、敷地番號（ダクタ）七番、八番、九番、十番、區劃番號（クワルテロン）十三區劃、街名、ルリア・ワシントン・ルイス、町名、パテモニユ・アルタバピラ、買受代金、六百ミル、使用方法、集會所、學校、教員住宅、運動場以外の商店或は普通住宅地とせざること讓渡人、ジュウリヨ・ウナニー、登記簿署名代表者、山下永一、重本松次郎、矢野淺太郎、高山政太、高山勝次、平川數一、實盛新一 伯人教師カマルゴ先生退職なす</p>
	六月二十九日	

年次	月日	記事
	同	領事館勸業部より送附の茶植を分配 なす
	六月三十日	私立學校申請中の所本日認可令に接 す
	七月十五日	カマルゴ教師後任としと月俸二百五 十ミルにてテミスト・クレス・デ・
	七月十六日	アルメーダ教師を招聘す
	七月二十七日	カマルゴ教師、アルメーダの新舊教 員の送迎式を舉行す
	八月十日	リンス市開業醫笹田ドクトルが無料 診察の爲來植なす
	同	新舊役員並に評議員の會合をなす
	八月三十一日	經濟不況の爲母國へ經營資金融通請 願書提出の爲植田勘三郎會長プロミ ツソン町へ出張す
	十一月十六日	右請願代表者を上塚周平、多羅間鐵 輔兩氏を以て上申なす事とす
	同	公報として母國政府より學校經費補 助金下附の内命に接す
	十二月十四日	山下學務員バウルーに出頭補助金二 コントス也を受領す、内一コント也
	十二月二十日	を教員優遇費に殘金一コントは學校 維持に充つ
		旭校本年度卒業生の卒業式を舉行す サンパウロ總領事館より日本人會經 營の旭小學校、産業上、精米場、珈 琲精撰機、倉庫、經營共同購入等の 諸調査の指令を見る

昭和六年

一月一日	四方拜遙拜式舉行す
一月十一日	産業組合結成、組合に必要な法規の作成、役員の選舉等を行ひ、後二名の役員サンパウロ總領事館勸業部へ出頭す
二月六日	平野祭舉行、祭主御竿氏之を行ふ
四月五日	當植民地中央部河川を境しリンス、カフエランジアと分割されをるを不便とし、全部をカフエランジア管區になる様申請せり
五月三日	旭校増築補助金母國より金邦貨二千圓也の送附令に接す、爲めに之れが受取り内申の爲め、副會長、會計バウルー領事館へ出頭せり
五月二十九日	原校長辭表提出の爲役員會は滿場一致留任を希望し、其の結果留任に決す
八月二日	前平野青年團を解消し新しく青年團設立總會を開催す
八月三日	第十四番奥在住者富田英實外八名は兒童の休校届を差出せり
八月五日	原校長不信任案を連名にて提出す
八月十八日	父兄會員並に原校長との意見の交換を行ひ、其の結果双方了解して開散す
八月二十六日	カフエランジア農事講習會へ佐藤勘七、山本佳四雄の兩氏出頭なさしむ
	原校長支持派と反對派の二流に植民地内對立して譲らざる爲、多羅間鐵輔氏來植なし和解に勉め遂に和約な

昭和七年

十月十八日	同	り原氏退職と決す 市岡恐道氏原氏の後任として來植す 藤澤學務委員辭表提出するも慰撫に 依り留任と決す
十一月二十九日		内山總領事書記生帶同來植す、内山 古賀兩氏に記念寫眞を送呈す
十二月二十五日		今村惟喜教師後任として山村濟教師 を招聘なす
一月一日		四方拜遙拜式を舉行なす
二月六日		平野祭執行す
二月七日		學校増築補助金伯貨十五コストスを 受取る爲佐藤副會長、藤原會計バウ ルー領事館へ出頭受領す
二月二十一日		學校修理、伯人教員住宅新築をなす 事に協議決定す
四月二十二日		東北饑飢の爲應分の義捐金募集す
六月十六日		市岡教師去り後任として渡邊長信氏 來植す
七月十三日	同	明穂梅吉氏來植、歡迎會をなす
七月二十四日		伯國視學官來植す、兒童中數名を除 く他下級生に付いては一日四十分の 日本語を許し、其れ以上不可能を申 し渡せり
八月十四日	同	伯國法令に基き葡語教育を主位に行 ふ事に協議一決す、伯語教師ベンジ ヤミン、邦語教師渡邊兩氏に依り後 任教師の赴任まで教授の擔當を托 す 新、舊役員の初會議を開催せり ブラジル國革命に依りその筋より本

年次	月日	記事
昭和八年	九月四日	會宛左の通知を受く、赤十字社へ寄附をなす事、何品に拘らず本會は右受領と共に寄附に着手せり、即ち金二百九十ミル餘、米四俵、豆四俵等の成績を見る 革命の爲め州政府の命に依り食料品の調査をなし、カフェランジア役場に届出をなす
	十月二十一日	青年團長は日本人會役員内より選出なす事に決定す、顧問は正副會長を以てなす 市岡恐道先生退職するに付き餞別又は父兄は見送りをなす
	同	教育に關し父兄會を開催なす 本年度農業報告を受け取る、重本氏本會員に復歸す
	十一月三日	渡邊、高橋兩教師辭表提出す
	十二月十八日	原氏より國旗並に書籍を受取り、正副會長兩學務歸植す
	十二月二十三日	四方拜 遙拜式舉行す
	一月一日	渡邊、高橋兩教師の辭表受理す、十四番區奥在住者催しの村芝居に花を送る、平川照正氏教師として赴任と決定す
	一月三日	平川校長家族引越し來植す
	一月十五日	旭校に高等科を設置なす事とす、渡邊教師の送別をなす
	二月六日	今村惟喜氏に依頼し平野祭を行ふ

年次	月日	記事
	二月七日	山本佳四雄氏は本會衛生事業に盡力せしに依り金五十ミルを贈りて之を賞す
	三月四日	佐藤勘七氏、コロノ袖山幸一、笹原常夫の二家族は契約不履行の爲、當植民地より追放なせり
	四月二十八日	汎カフエランジア青年主催の古庄氏謝恩會に會長出席す
	四月二十九日	天長節祝賀會並に大運動會開催す
	五月七日	内山總領事より廿五周年(但し移民)サンパウロ日本人會名宛に寄附金を送る
	五月二十八日	汎カフエランジア日本人會主催聯合運動會に出席なす事に決す
	六月十八日	平野氏入國滿二十五周年に相當なすを以て學校々庭に於て盛大なる式典を舉行す、午後一時より旭校生徒學藝會、ノグーラ青年會の芝居、忠臣藏、青年手踊り等を催し大盛況に一日を送る
	八月十三日	二十五周年を記念なす爲小學校にオルガンを日本より購入す、日本選手來伯に依り植民地内に於て寄附金を募集なす
	八月二十三日	チブス豫防注射を施す
	十一月十九日	十二番區に新に評議員一名を置く、以後毎年五月、十二月に各戸大掃除を行ひ衛生検査を行ふ

昭和九年	昭和十年
一月十四日	一月十三日
二月六日	二月六日
二月二十五日	二月十一日
六月十日	二月二十四日
八月二十二日	三月六日
同	三月七日
十月二十八日	三月二十一日
十二月五日	四月二十九日
定期總會を開催す	五月二十二日
平野祭舉行	同
机、腰掛の不足を調へる	七月七日
宮崎高等農林校長、松岡博士、日野農學博士、勸業部北村技手來植す	同
愛國婦人會へ寄附金送附	同
州現勢調査、農業調査書作製	同
幹部會開催	同
墓地垣修理を煉瓦にて行ふ事を決議す	同
定期總會開催す	同
平野祭執行し大運動會を催し、來賓多數を見る	同
校舎新築補助申請をなす	同
墓地敷地購入問題を協議し交渉を始む	同
校舎新築に關し役員會開催	同
地主總會を開催、學校新築に決定す	同
校舎新築請負人の入札をなす、重本松次郎氏に落札す	同
天長節祝賀式を舉行す	同
故平野邁平氏十七回忌並に入植二十周年を新聞に廣告す	同
東北寒害義捐金募集をなす	同
上塚周平翁逝去に付き佐藤會長、鍋島の兩氏會葬す	同
邦語教員一名増員をなす	同
日本病院地方委員時の正副日本人會長と決定す	同
開拓二十周年記念祭を執行す	同

昭和十一年

八月二十五日	バウルー領事代理藤本書記生來會、多羅間鐵輔氏來會、他總領事、新聞社長等の祝電あり、二日間に亘り植民地初まつての大盛況をなす
十月六日	校舎及墓地寄附者に對し新聞廣告を以て受領證に代ふ
十二月六日	同仁會無料診察を行ふ
十二月二十二日	伯國教師一名に退職を命ず
同	故平野運平、故松村總領事の經歷書を總領事館に提出す
一月一日	墓地敷地を一コント也にて購入す
一月十二日	拜賀式舉行す
二月六日	定期總會開催
二月十六日	平野祭執行
三月二十九日	墓地埋葬者氏名調査をなす
四月一日	父兄會開催、小學兒童に一定學生服を着用なさしむ
五月三日	林田浩海教師辭職す
六月十四日	地主總會、松村未亡人謝恩金處分方法を決す
同	邦語教師三浦氏を招聘す
十二月二十日	バウルー日會出席者二名を送る
一月一日	カーザ東山より牧場百アルケールの寄附を受く
一月七日	拜賀式舉行す
一月九日	教員任免問題の爲評議員父兄聯合會開催す
一月二十四日	地主總會開催す
二月六日	定期總會開催す
	植民祭執行（神式）

昭和十二年

年次	月日	記事
昭和十三年	四月二十九日	天長節大運動會開催す
	九月五日	旭小學校昇格問題の爲協議す
	九月三十日	國防献金メ切を行ひ發送す
	十月三日	徳永治作氏小學校へ掛時計を寄贈す
	十月十日	日本人會名義にて牛四十六頭購入す
	十一月七日	學校建築補助金五コントス受入れ
	同	督學の爲日本政府より理科學教材見本送付
	十一月三日	明治節遙拜式舉行、並に皇軍將兵武運長久祈願式舉行す
	同	最高幹部會開催
	十二月五日	外務省派遣教師小宮文雄氏赴任す
	十二月十二日	遙拜式を舉行なす
	一月一日	第二回國防献金を發送す
	一月九日	定期總會開催す
一月十六日	役員問題の爲臨時總會開催す	
三月六日	母國出征軍人慰問團に入團加入す	
三月十五日	チブス注射を施行すと同時に種痘を行ふ	
三月十九日	山下先生リンスへ教員講習會に出席す	
同	日支事變慰問團多羅間氏出發に際し慰問袋各戸より發送す	
四月二十三日	バルチクラールをムニシパールに變更す	
五月八日	小學兒童體格検査を今田ドクトルに依つて行ふ	
五月十三日	カフエランジア聯合日本人會に會長	
五月二十八日		

年次	月日	記事
昭和十四年	六月十二日	出席
	六月十三日	學校經營團體登錄を行ふ
	六月二十六日	日本人會所有牛四十五頭賣却す
	七月十六日	山下山夫教師辭任す
	八月七日	小林氏妻女病氣の爲聖市病院に送る爲寄附金募集をなす
	八月十七日	新家教師夫妻赴任し來る
	八月三十日	坂根總領事來植視察す
	九月十八日	栗原研究所長神屋氏一行來植史蹟調査をなす、從軍記者多賀氏の日支事變實話聽く、カフェランジア設立サ
	十月十六日	植民地現勢調査を行ふ
	十一月三日	外人教師オスカル移轉の爲辭任す
	十一月四日	軍用患者輸送飛行機獻納金募集す
	十二月十六日	明治節祝賀式舉行
	十二月二十五日	邦語教育を巡回教授に改める
	一月一日	小學生卒業式を舉行す
一月八日	清潔検査執行	
一月十五日	四方拜賀式を時節柄見合せ	
四月二十九日	定期總會開催す	
六月二十五日	植民地在住者人名簿作製	
七月一日	天長祝賀式後大運動會を開催す	
八月六日	春季大掃除を施行す	
十月十五日	チプス豫防注射第一回分施行	
十一月二日	地主父兄聯合會開催す	
	外國人登録の爲書類作製	
	墓地垣修理完成をなす	

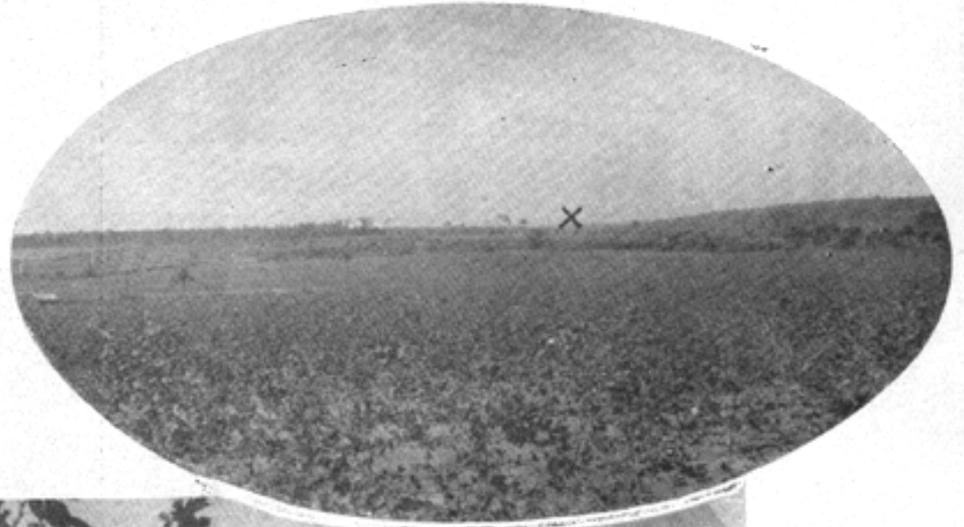
昭和十五年	十二月二十五日	後期衛生大掃除を施行す
	一月一日	皇紀二千六百年に當る爲特に拜賀を莊嚴に取行ふ
	一月十四日	定期總會開催す、記念事業として各人節約を申合せ植民史編纂を決す
		註 大正四年入植より昭和二年十月十六日迄の議事録不明の爲記載せず

在住者名簿

縣名	船名	渡伯年月日	氏名
北海道	モンテビデオ	昭和五年九月	鈴木清司
同	サンクトラス	同八年八月	神林傳吉
同	ラブラタ	同十三年五月	佐藤理吉
青盛	同	同八年六月	大澤武平
同	同	同	大澤武雄
岩手	ブエノスアイレス	同八年八月	柴田勝造
同	同	同九年十一月	船木常太郎
秋田	同	同九年九月	船木雄二郎
同	マニラ	同八年十一月	嵯峨雄二郎
同	ブエノスアイレス	同九年十一月	船木運太郎
山形	サンクトラス	同六年十一月	鈴木正太郎
同	同	同十二年十月	鈴木敏夫
福島	マニラ	同八年五月	早坂敏夫
同	同	同八年三月	田中則夫
茨城	ブエノスアイレス	同六年二月	小野才吉
同	同	同六年二月	弓削清治

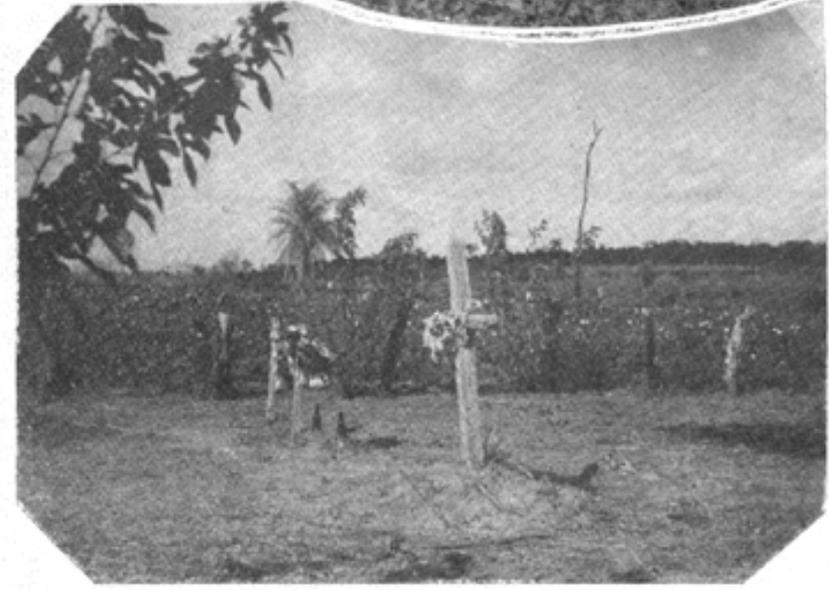
縣名	船名	渡伯年月日	氏名
千葉	旅順	明治四十三年六月	今井 萬
同	サント	昭和八年十二月	小川 司
東京	旅順	明治四十三年六月	中村 萬
新	サント	昭和九年十二月	小菅 喜
同	マニラ	同九年二月	山本 久
同	アラビヤ	同九年四月	神田 留
福	サント	同十年五月	末永 利
愛	ブエノスアイレス	同六年五月	新家 恭
同	アフリカ	同八年一月	白石 拾
三	神奈川	大正十一年五月	岩並 次
滋	若狭	昭和五年七月	竹井 助
同	同	大正六年六月	田中 龍
新	アラビヤ	昭和九年六月	石塚 巖
兵	ハワ	同元年五月	羽賀 喜
同	若狭	大正三年四月	山下 永
同	同	同	山下 定
奈	ブエノスアイレス	昭和五年十一月	南庄 太
名古屋	モンテビデオ	同七年十二月	森下 光
鳥	サント	同九年十二月	森下 庄
同	同	同	塚本 秋
岡	旅順	明治四十三年六月	森定 治
同	嚴島	同四十五年五月	林美 藏
同	第二雲	大正二年五月	上野 荒
同	旅順	明治四十三年六月	藤原 武
同	シヤト	大正七年十月	山本 佳
同	旅順	明治四十三年六月	實盛 一
同	若狭	大正二年五月	山本 長
同	ハワ	昭和六年四月	江見 義

縣名	船名	渡伯年月日	氏名
神奈川	神奈川	明治四十五年四月	山室弘造
ア	ア	昭和八年八月	岡原六郎
ラ	ラ	同三年十二月	淺野三保吉
ナ	ナ	同五年五月	櫻本要一郎
ニ	ニ	大正元年十一月	佐々木若松
ノ	ノ	同二年五月	大田長次郎
ハ	ハ	同	櫻井初次郎
ヘ	ヘ	明治四十三年六月	林傳吉
ト	ト	大正三年五月	藤井福之助
チ	チ	同	伊藤助一
リ	リ	同二年五月	福島守一
ニ	ニ	同	久保文次郎
ノ	ノ	同三年五月	平川數一
ハ	ハ	同	引地良作
ヘ	ヘ	昭和五年六月	佐藤見一郎
ト	ト	明治四十五年五月	河尾利一郎
チ	チ	大正三年五月	榎野藤太郎
リ	リ	明治四十二年六月	吉崎敏雄
ニ	ニ	昭和八年十月	櫻田源二
ノ	ノ	同	富田恒祐
ハ	ハ	昭和八年十二月	林彌一
ヘ	ヘ	大正三年四月	重本智吉
ト	ト	同	佐藤勘七
チ	チ	昭和八年九月	久保勝
リ	リ	大正二年十月	藤澤豊次郎
ニ	ニ	同	山本宇一郎
ノ	ノ	大正十四年七月	三好吉郎
ハ	ハ	昭和九年一月	大石利實



本植民地入植當初に開拓せし所、マ
リヤ病に冒され苦酸に泣きし歴史の土
地、×は犠牲者を埋めし墓地の位置

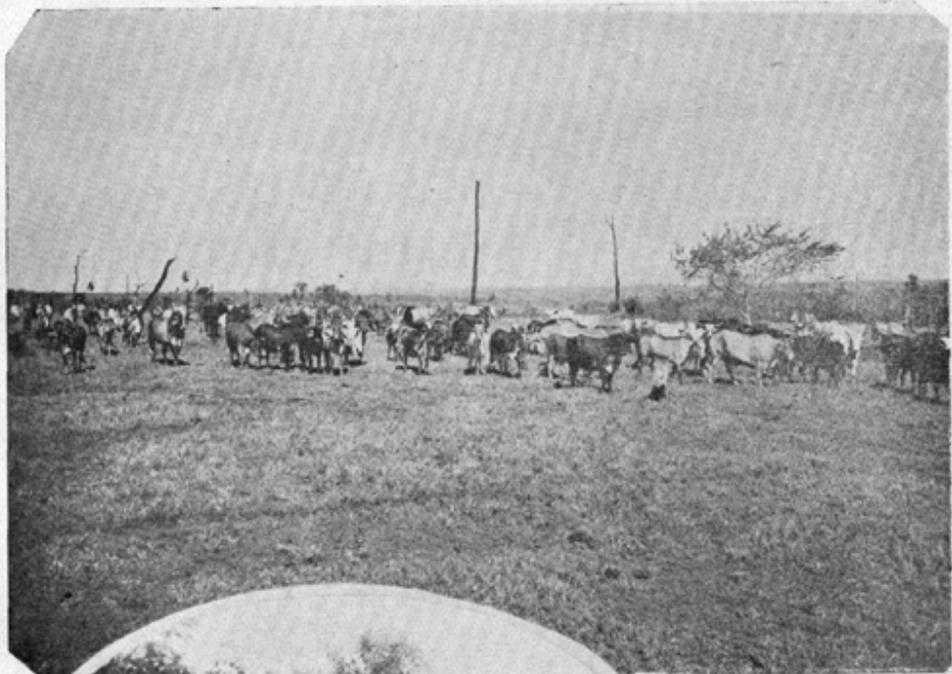
×



入植犠牲者の墓標の一部

平野川の下流にして入植當初此の水を利用し、水車を作り自家用の精米を作りし箇所





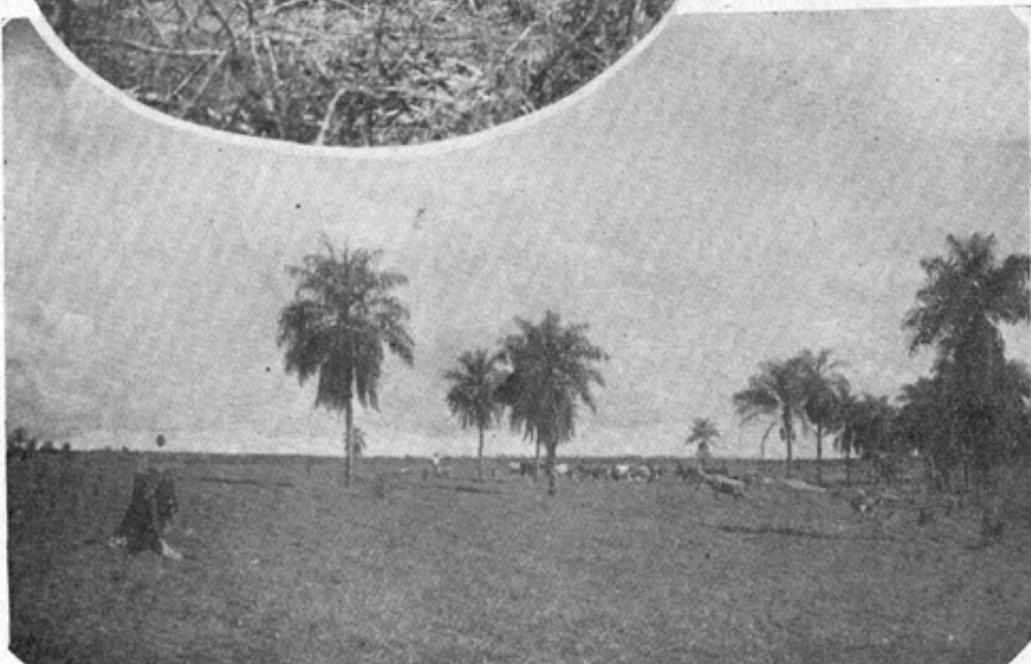
會人本日地民植野平 上
景光の場牧の有所

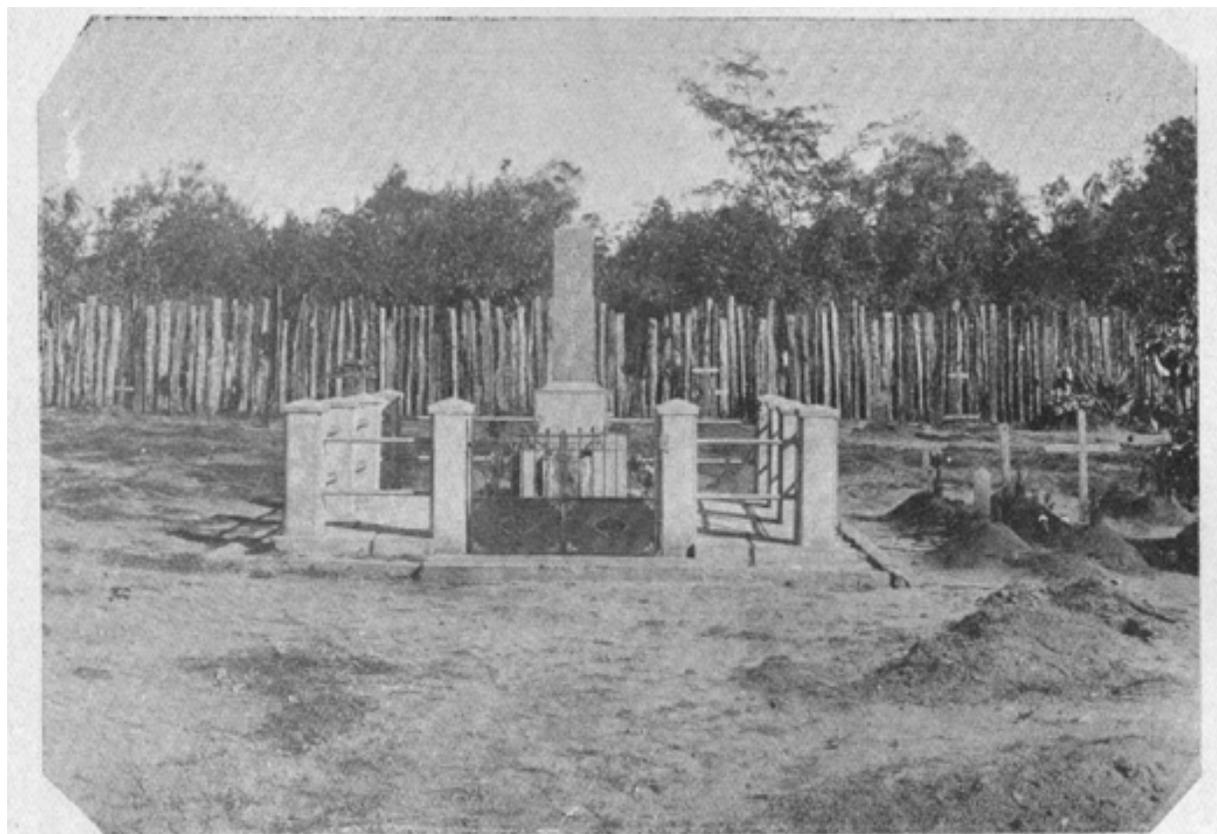


の場牧の營經氏野嶺 下
部 一

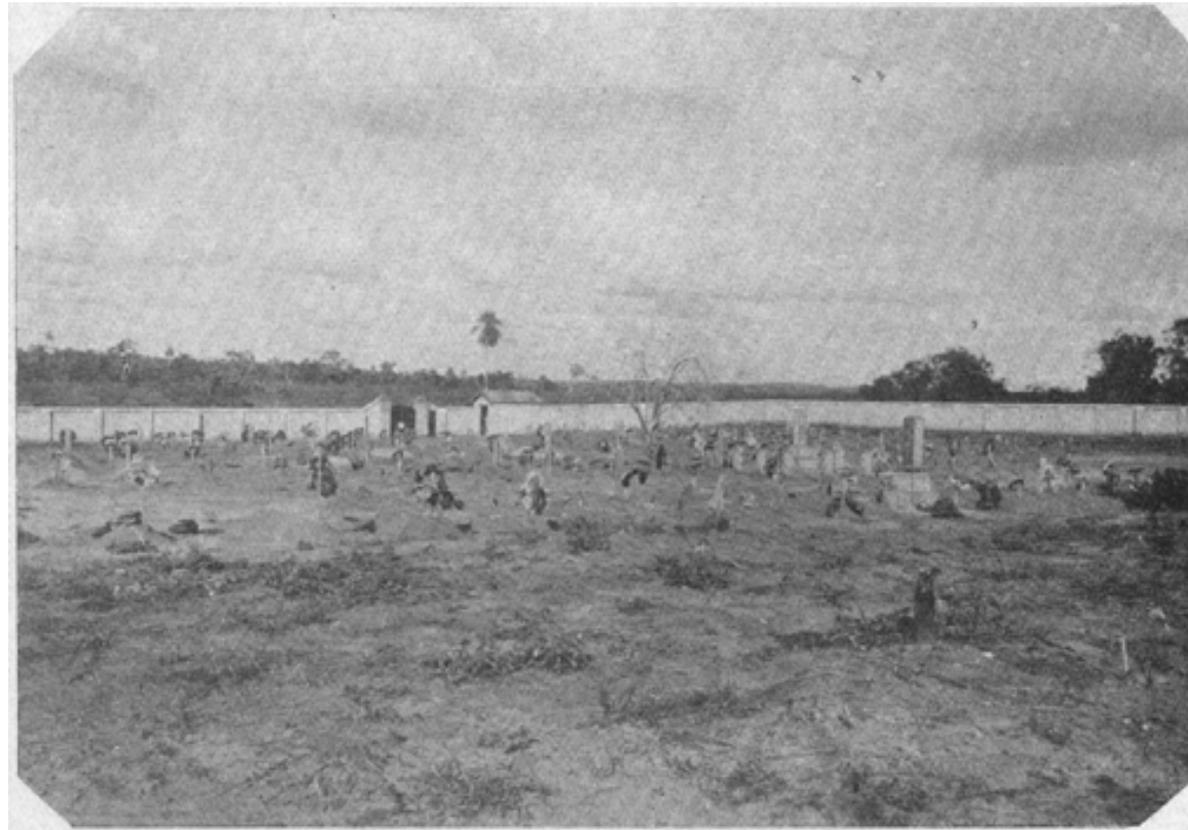


の場牧の營經氏野嶺、下
部 一





平野運平氏墓標



地墓同共地民植野平



室 教 間 林 校 旭 (中) 碑 魂 鎮 (上)

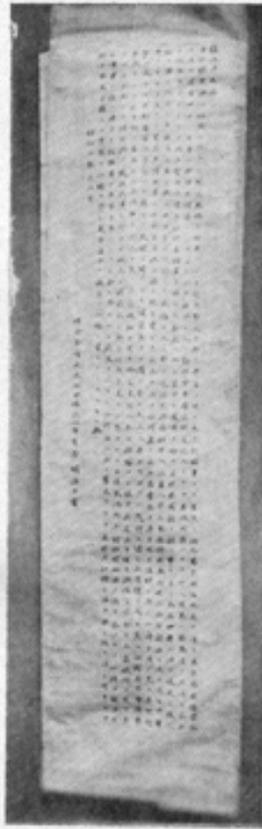


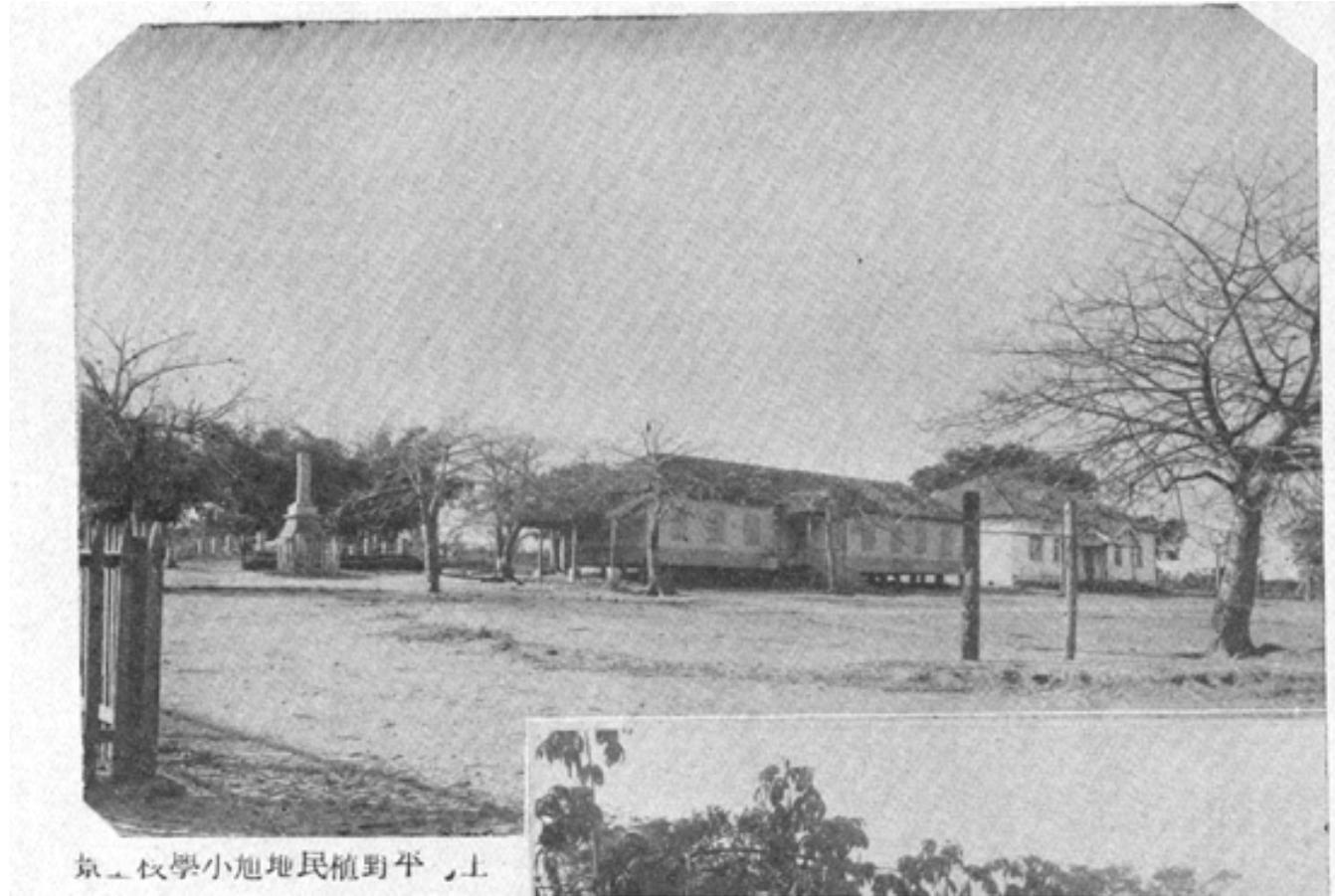
平野植民地開拓十二週年紀念及勞功者



元帝國全權大使 有吉明閣下直筆

題字並記碑文





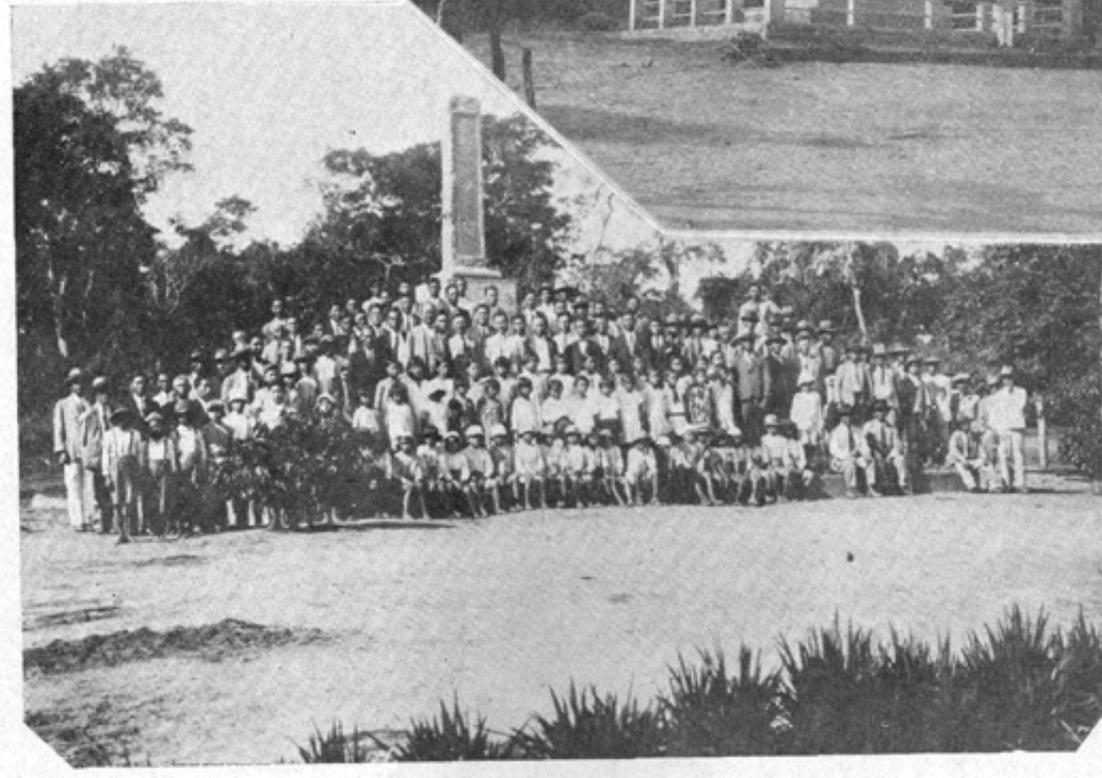
京上校學小旭地民植野平

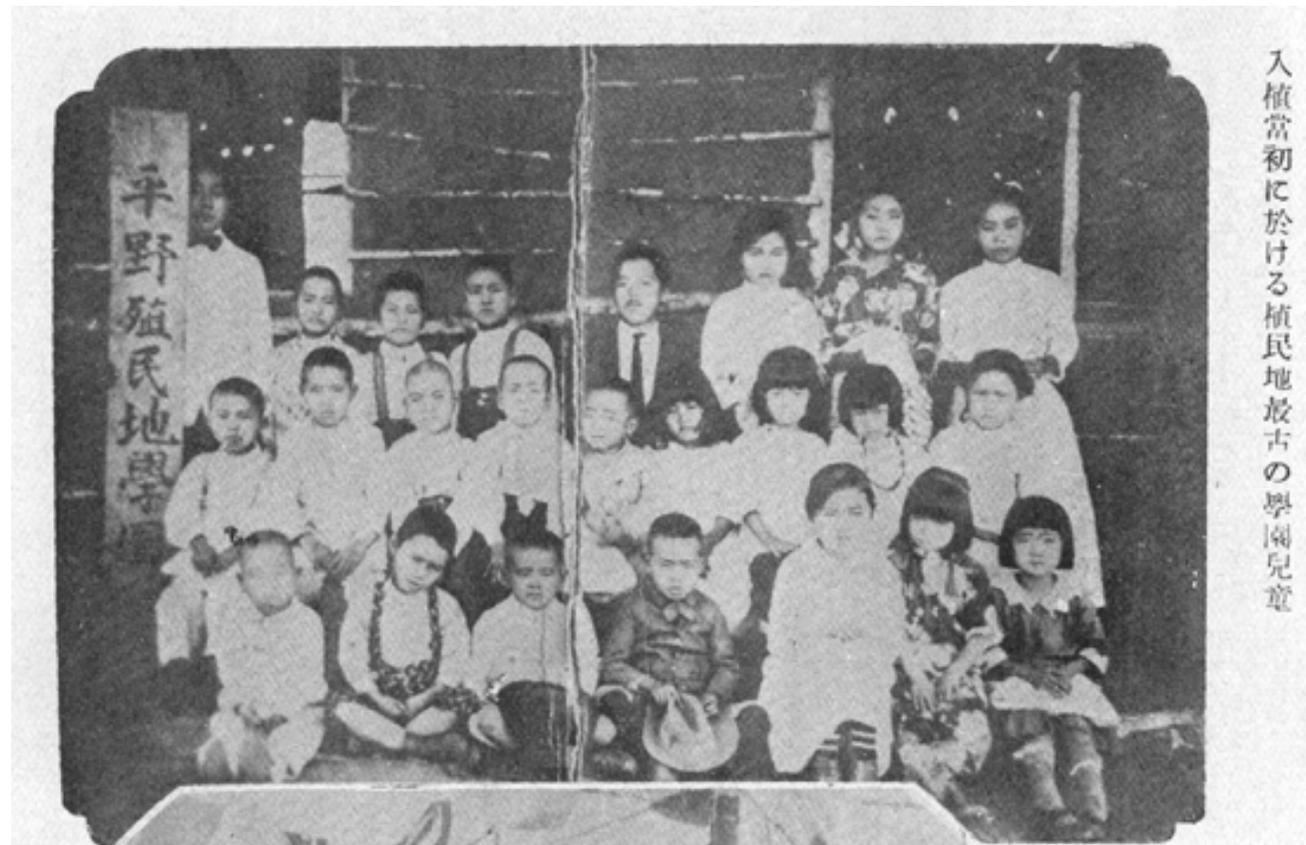


京上校學小旭地民植對平 上

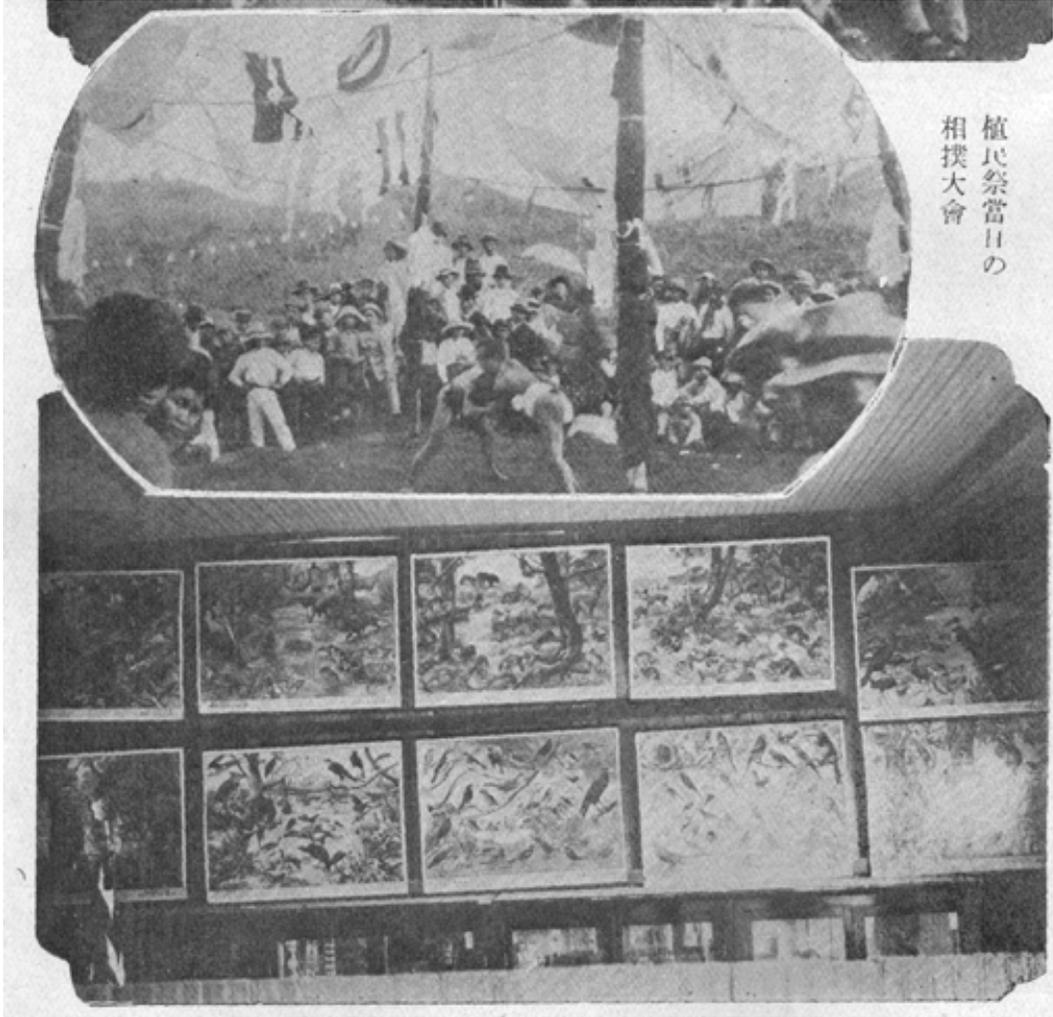
碑魂鎮と祀を者往穢植入 中

の察視地民植事領總山内 下
影撮念記





入植當初に於ける植民地最古の學園兒童



植民祭當日の
相撲大會

小學校理科教材の一部



同一員業從合組業産野平



同一員役合組業産野平

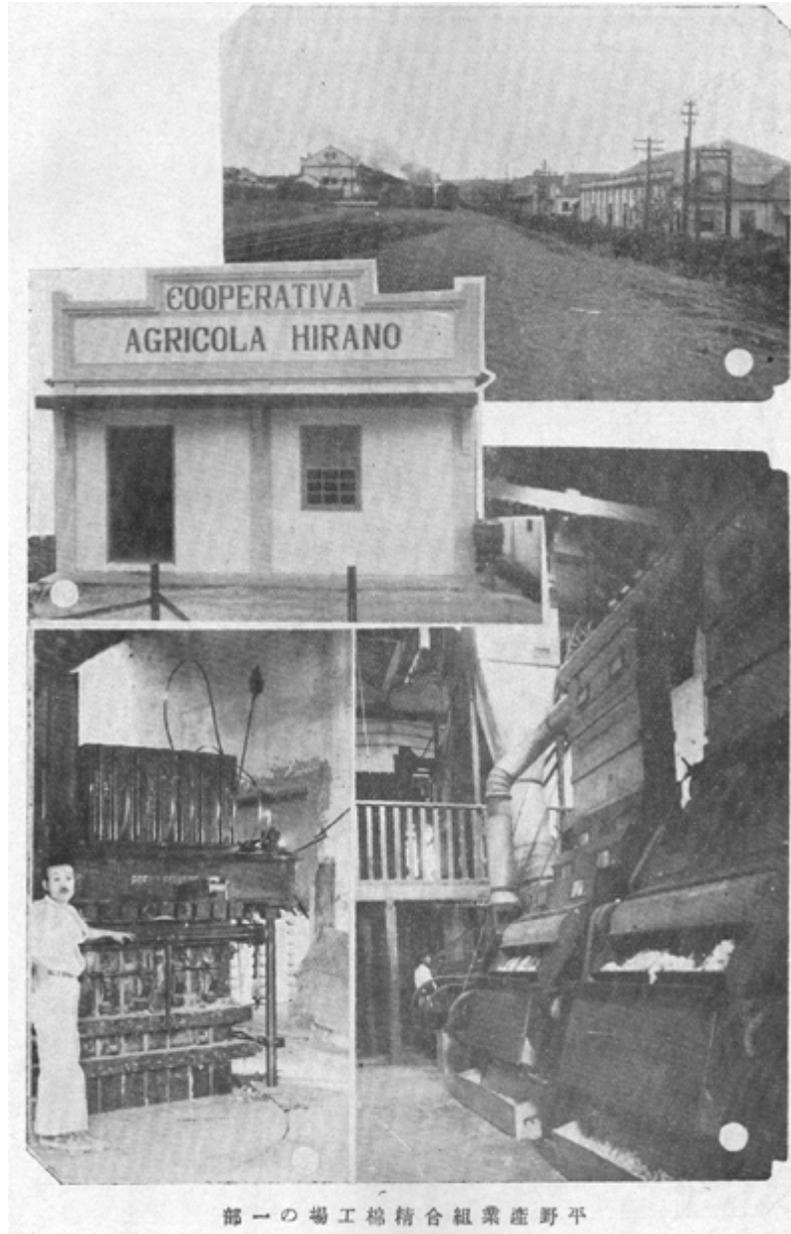


員役現會人本日野平

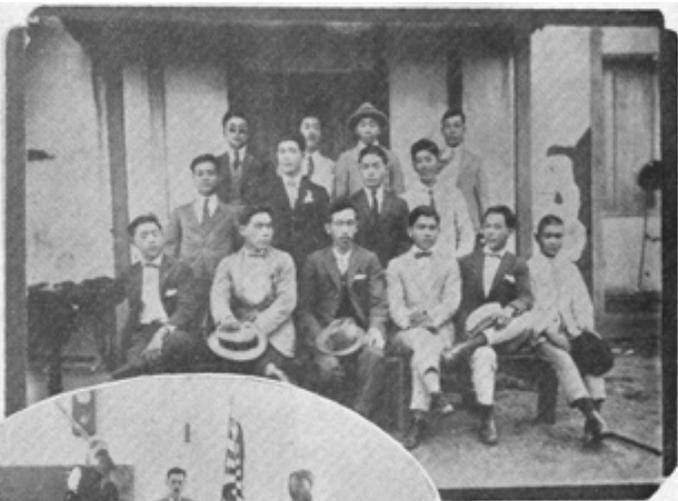


員會人郷地民植野平





入植當所に於ける青年團員



青年團員の剣道試合



現 青 年 團 員



影撮念記話法生誕仰師直 上
 館 * 會 志 同 中
 顔 の 役 話 世 の 其 下
 名 有 て し と 葛 の 識 思 不 左

若か
コーヒ
の
葉開
の風景
と
其の結
實の有
様



平野川の滝



ドライド川に棲息する(スタキイ)を生捕りし所



娘愛と妻夫氏一永下山

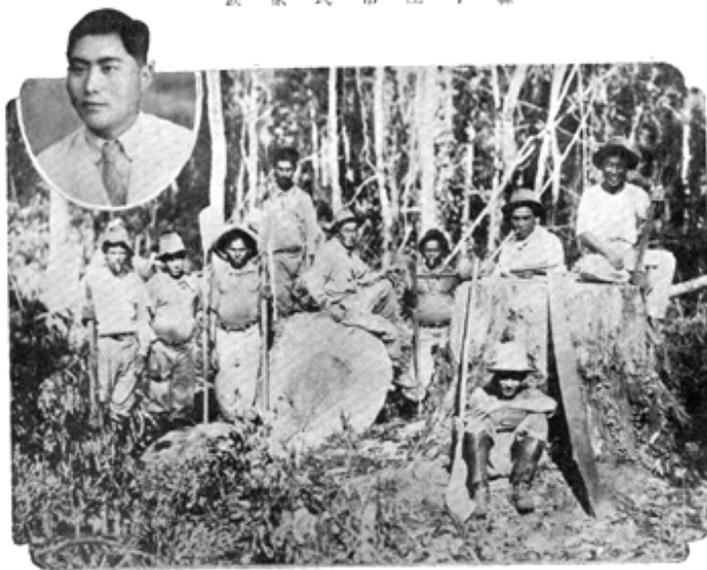




上、
山下定一氏住宅と
コロニヤの一部
下、
氏経営の東柑畑の一部



森下庄市氏家族



原始林の採伐状況調査は本家秋造氏



藤原武太郎氏一家



伯國密林に棲息する
オンサ(虎の一種)の仔



宮盛一郎氏家族と
其の住宅



ドライド河畔に棲息して居
るスクリーと云ふ蛇で長さ
六米に及ぶ





ド
ラ
ー
ド
河
の
ド
ラ
ー
ド
橋

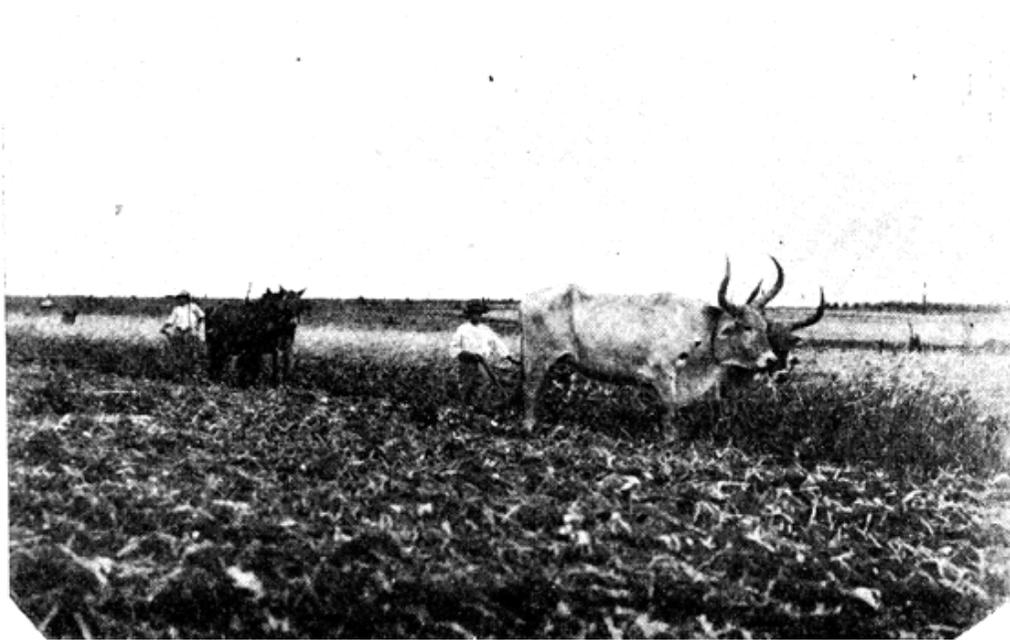


ド
ラ
ー
ド
河
に
丸
太
舟
に
乗
つ
て
河
豚
を
獵
し
つ
ゝ
あ
る
風
景

ブラジル特産の珈琲の花盛り

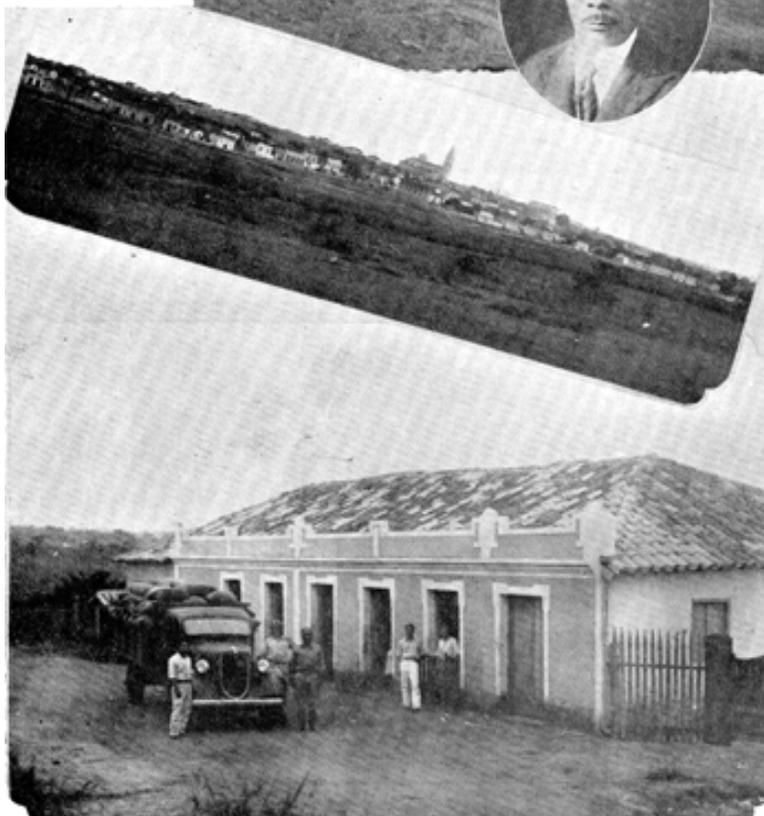


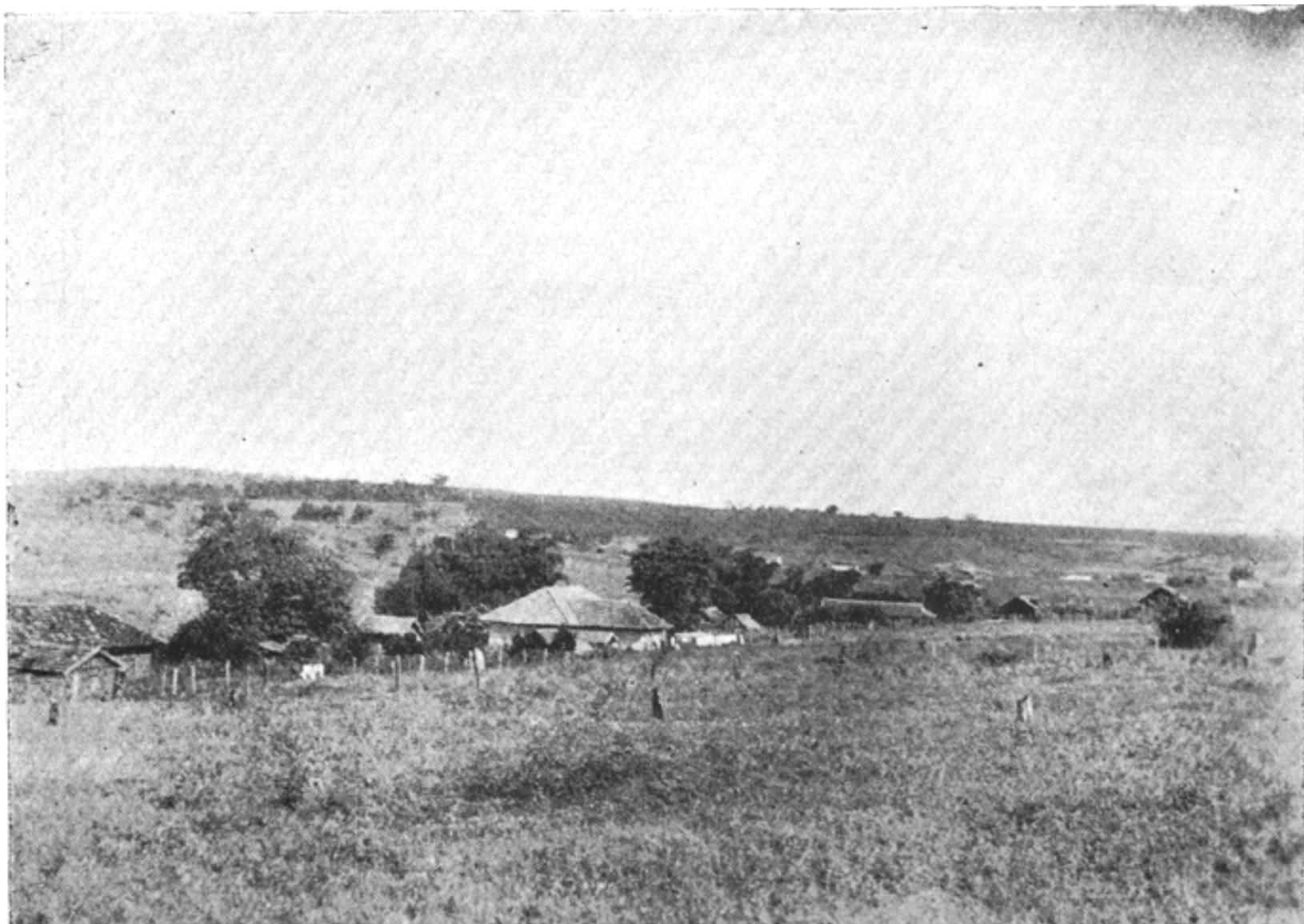
都一の宅住と族家の氏郎次文保久



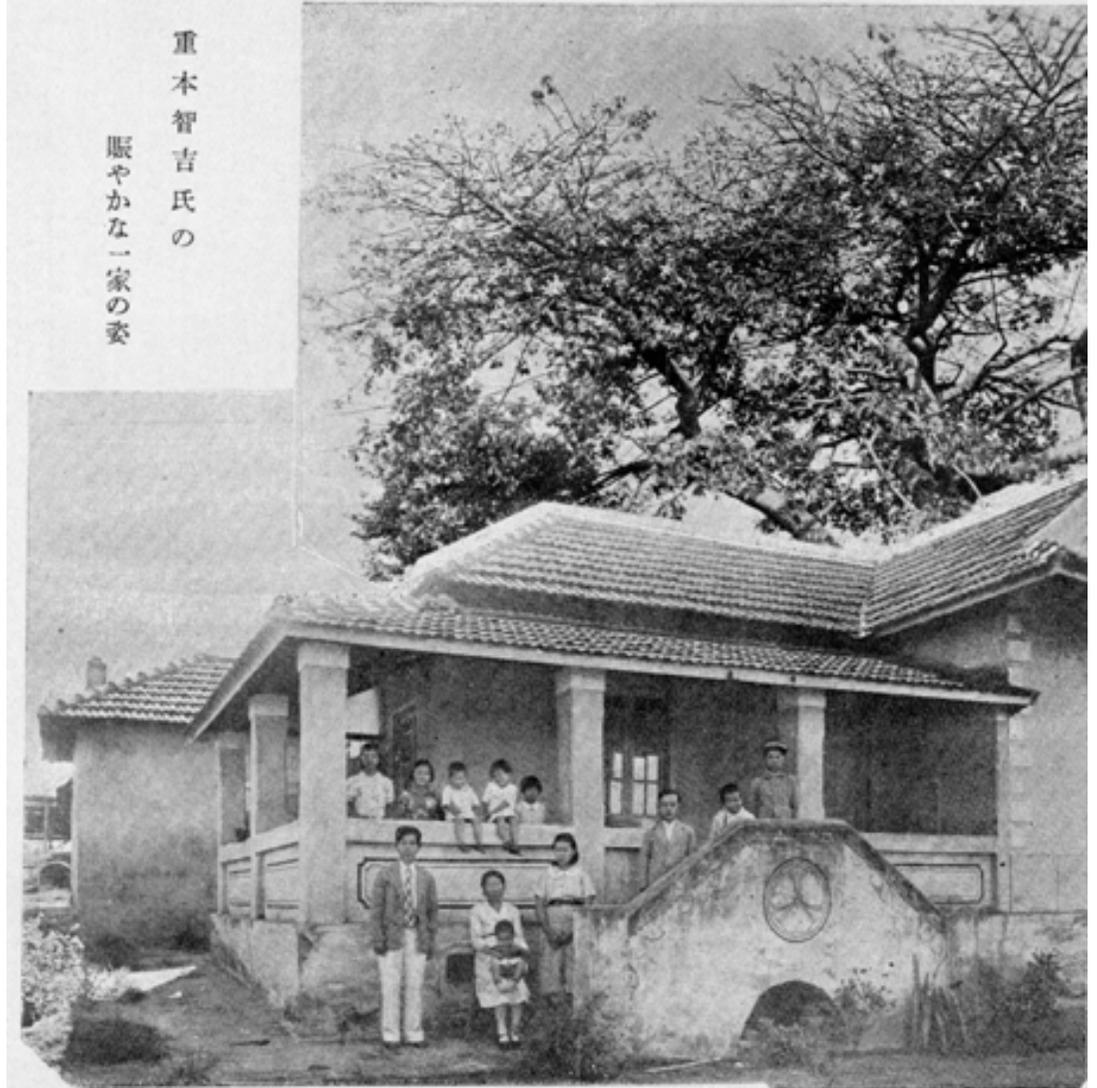


上、河尾利一氏と氏経営のホテル
中、カフエランジア町の一部
下、平野産業組合の賣店





重本智吉氏の
賑やかな一家の姿



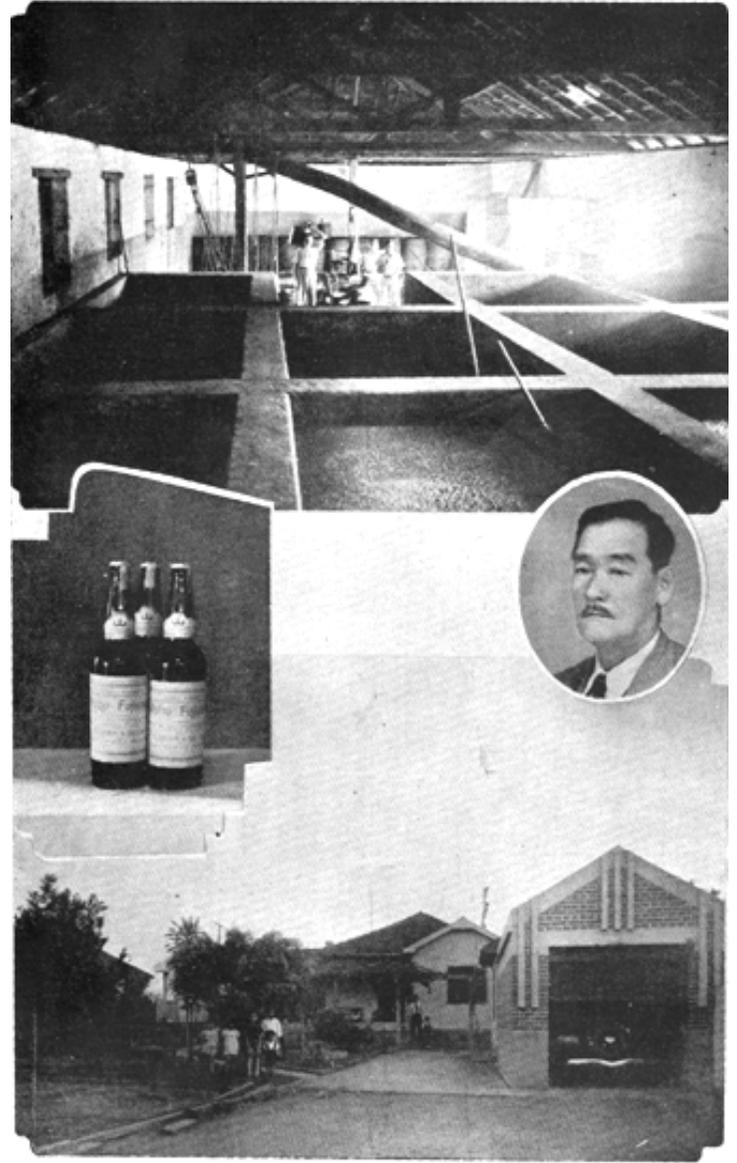
佐
藤
助
七
氏
住
宅



岡
氏
の
家
族

遠
方
よ
り
見
た
る
氏
の
住
宅





景全宅住の氏と部一の場工造釀油醬の齊經氏澤藤



山本一氏經營の牧畜現況



山本一氏の家族



上、三好吉原長一家
中、植民地
下、棉花産地の状況



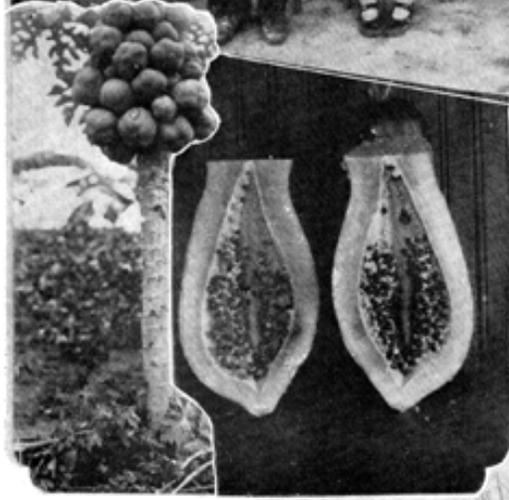


荷物を運搬する車と
ブローロ(駄馬)



↑ 池田藤造氏一家

← 南米特有の美味なマモン



→ 原始的 방법에依り自家用砂糖製
造の風景



↑ 高山政太氏一家
← 氏經營の密相樹

植民地の一部 →





小澤光造氏の賑やかな一族



寺田稔氏家族



森伊部三郎氏家族住宅



森伊部三郎氏の珈琲乾燥場

平野植民地
第十七番區の一部
→
関内
谷口八郎氏



←
打山一次氏の母と妹



→
ブラジルに於ける
馬耕の状況





園 研 助 と 宅 住 氏 雄 義 田 前



聖 園 家 一 な か や 張 の 氏 田 前



上、鍋島信太郎氏住宅と
コーヒー乾燥場の光景
中、棉花運搬の状況
下、牧畜の一部

徳永治作氏の住宅

(徳永氏は内陣)



↓別府才吉氏の家族





下田房吉氏一家



具志堅充三氏家族

